

企業の活動をSNSで中国へ情報発信 2017年度広東省大学生招聘プログラム

期 間：2017年8月1日(火)～8月5日(土)
協 力：中国広東省人民対外友好協会、中国青年報社
参 加 者：中国広東省の大学生6名
コ ー デ イ タ ー：渡辺 精一 経済広報センター国際広報部主任研究員

経済広報センターは、中国の広東省人民対外友好協会、中国青年報社と協力し、8月1日から5日にかけて、ジャーナリストを目指す広東省の大学生6名を招聘した。「企業の街づくりと都市力の強化～企業の社会インフラ整備」をテーマに企業や研究機関などを訪問、日本の最先端の取り組みを学び、その成果を随時インターネット交流サイト(SNS)で発信した。

プログラムに参加したのは、中山大学、華南理工大学、華南農業大学、広東第二師範学院、広東海洋大学、広東工業大学の学生で、いずれも今回が初めての来日。一行は、三菱地所と東京急行電鉄で、東京駅と渋谷駅周辺の都市開発の現状と将来について、環境・防災面も含めそれぞれ説明を聞き、建設工事の状況などを見学。ローソン訪問では、災害時に救援物資を提供する「ライフライン」としての店舗の役割を学び、CO₂冷媒を使用した冷凍冷蔵機器などの省エネ設備を導入した実験店舗も見学した。富士電機では、停電時でも遠隔操作による非常用電源で稼働する自動販売機などの紹介を受け、同社の中国での積極的な事業展開について説明を聞いた。よみうりランドでは、モノづくり体験型アトラクション「グッジョバ!!」の開設の背景や狙いに関する説明を受けた。

また、茨城県つくば市の産業技術総合研究所では、産業界と社会のニーズに対応した技術開発や起業支援の取り組みを学び、エネルギーやリサイクルに関する展示などを見学した。

参加した学生たちは、街づくりにおける日本企業の取り組みの独自性や社会的責任に対する熱心な姿勢と高い意識などについて、活発に意見交換し、中国で広く使われているSNS「微信(WeChat)」で積極的に情報発信した。

以 上



三菱一号館美術館を見学した訪問団